

## 6 国語おう用力強化シート

番 名前 ( )

※ かい答は、《かい答用紙》に書きましよう。

高田さんは、地いきのれきしについて調べたことをほうこくします。次の高田さんが書いた【ほうこく文の下書き】を読んで、あとの問いに答えましよう。  
【ほうこく文の下書き】

### 「銀納義民伝」について

#### 1 調べようと思ったきっかけ

新聞に【資料1】の記事がのっているのを見つけてました。これは、中学校で美じゅつ部員だった生徒たちが「銀納義民伝」の紙しばいを作ったという記事です。紙しばいの絵がとても上手でした。そして、この記事をきっかけにして、わたしは、きよう土資料館でもっとくわしく「銀納義民伝」について調べることになりました。

#### 2 銀納について

江戸時代、村でとれたお米のいくらかを、との様に差し出さなければなりません。このお米のことを「年貢」といいます。銀納というのは、お米の代わりに銀を年貢とするという意味です。年貢はお米であるのがふ通でしたが、記事に出ている村は、けわしい山にかこまれて、①お米があまりとれなかったそうです。もちろん、お米が少ないので、作っている村人もお米を食べることができませんでした。

#### 3 しょう屋の工藤治兵衛

村のしょう屋の工藤治兵衛は、お米がとれずにこまっていた村人のために、との様に、お米の代わりに銀で年貢を差し出したいと願いました。しょう屋というのは、村の代表という立場の人です。ただ、この時代、との様に意見をのべるためには、自分の命をかける覚悟が必要でした。それでも治兵衛は、村の代表として、人々のために命をかけてとの様に願い出たのです。しかし、との様は、願いを聞いてくれず、治兵衛は命を落としました。

#### 【資料1】



#### 【資料2】



村人たちは、治兵衛の思いに感（かん）しやしました。そこで、「命（いのち）を投（な）げ出して人のためにつくした人」という意味の「義民」として、今（いま）までずっと、治兵衛のことを伝えてきました。新聞にのっていた【資料2】の紙（かみ）しばいには、多くの子どもたちに、治兵衛のことを知（し）ってほしいという願（ねが）いがこめられています。

#### 4 分（わ）かったことや考えたこと

しょう屋（や）の治兵衛は、村人（むらびと）が苦（くる）しむすがたを見て、とてもつらかったから、代表（だいひょう）である自分（おれ）が何とかみんなを助（たす）けたいと考えた（おもう）と思います。わたしは、治兵衛（じへいゑい）が村人（むらびと）を思（おも）いやる気持（きもち）ちに②感（かん）動（どう）しました。

今回（こんかい）、わたしは、地（ち）いきに残（のこ）る話（わ）をくわしく調（しら）べました。昔（むかし）は、お米（こめ）を年貢（ねんこう）として差（さ）し出（だ）していたことを知（し）りました。③また、お米（こめ）がとれないことで、治兵衛（じへいゑい）や村（むら）の人々（びと）がとても苦（くる）勞（らう）したことも知（し）りましたので、地（ち）いきに残（のこ）る話（わ）をみんなが知（し）るためにずつと伝（つた）えていくことは、とても大切（たいせつ）だと分（わ）かりました。

一 高田（たかた）さんは、【ほうこく文（ぶん）の下書（げし）き】の中（なか）の——線部（せんぶ）②「感（かん）動（どう）しました」について、感（かん）動（どう）したことをより強（あつ）く表（あらわ）すために、「（ ）」を打（う）たれました」という言（こと）葉（ば）に書（か）きかえることにしました。

（ ）に当（あ）てはまる言（こと）葉（ば）として、最（も）もふさわしいものを次のアからエまでの中（なか）から一つ選（えら）んで、その記号（きごう）を書（か）きましよう。

- ア 頭（あたま）
- イ 目（め）
- ウ 鼻（はな）
- エ 心（こころ）

二 【ほうこく文（ぶん）の下書（げし）き】を讀（よ）んでいた高田（たかた）さんは、讀（よ）み手に伝（つた）わりやすくするために、——線部（せんぶ）③の一文（いちぶん）を、次（つぎ）のように二つの文（ぶん）に分（わ）けて書（か）き直すことにしました。

また、お米（こめ）がとれないことで、治兵衛（じへいゑい）や村（むら）の人々（びと）がとても苦（くる）勞（らう）したことも知（し）りました。（ ）に、地（ち）いきに残（のこ）る話（わ）をみんなが知（し）るためにずつと伝（つた）えていくことは、とても大切（たいせつ）だと分（わ）かりました。

（ ）には、文（ぶん）と文（ぶん）をつなぐ言（こと）葉（ば）が入（い）ります。（ ）に当（あ）てはまる言（こと）葉（ば）として、最（も）もふさわしいものを次のアからエまでの中（なか）から一つ選（えら）んで、その記号（きごう）を書（か）きましよう。

- ア すると
- イ しかし
- ウ ですから
- エ しかも

三 【ほうこく文の下書き】の中の——線部①「お米があまりとれなかった」について、高田さんは、友達ともだちから次の感想かんそうをもらいました。

【友達の感想】

どれくらいお米がとれなかったのかが分かる説明せつめいを加えくわると、この地いきの村人たちの苦労がよく分かると思っています。



そこで、高田さんは、きょう土資料館の館長かんちょうさんから聞いた話を思い出して、——線部①の前に説明を加えることにしました。

【館長さんの話】

お米があまりとれない村の人は、本当に苦労したんだよ。自分の口には入らないお米をわざわざ近くの村から買ったたり、買うお金がなければ、借かりたりして年貢をおさめようとしたんだ。苦労する村人たちの様子ようすを見て、自分のことよりも村人のことを考えて行動こうどうした治兵衛は、しょう屋としてのせきになん感があったんだね。



加える説明として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア お米を近所きんじょの人に買ってもらわなければならないほど
- イ お米を作りすぎないようにしなければならないほど
- ウ お米をすべて食べてしまわなければならないほど
- エ お米をよそで買ったたり借りたりしなければならないほど

四 高田さんは、【ほうこく文の下書き】を読み返かえして、次の【メモ】の内ようが書けているかをたしかめました。(A)、(B)に当てはまる言葉として、最もふさわしいものをあとのアからエまでの中から一つずつ選んで、その記号を書きましょう。

【メモ】

- 「銀納義民伝」について、次の二つを分かりやすく説明する。
- ・ なぜ、年貢はお米でなく(A)だったのか
  - ・ なぜ、しょう屋の治兵衛が(B)とよばれているか

ア 銀      イ 紙      ウ 義民      エ 代表

6

国語おう用力強化シート かい答用紙

番 名前 (

)

一

二

三

四

A

B

シート6

正答例<sub>れい</sub>

一  
エ

二  
ウ

三  
エ

四A  
ア

四B  
ウ